『現代の奴隷
～身近にひそむ
人身取引ビジネスの真実と
私たちにできること

モニーク・ヴィラ著　山岡万里子訳　英治出版

訳者と読む『現代の奴隷』

『現代の奴隷～身近にひそむ人身取引ビジネスの真実と私たちにできること』
モニーク・ヴィラ著　山岡万里子訳　英治出版　の連続読書会

ノット・フォー・セール・ジャパン

2023年『人身取引反対世界デー』キャンペーン

ご存知ですか？

—

７月３０日は、国連が定める

人身取引反対世界デー

2014年に制定。

ウゴチ・ダニエルズ副事務局長がビデオメッセージを発表

国際移住機関（IOM）の日本語ウェブサイトに日本語訳があります。

https://japan.iom.int/news/world-day-against-trafficking-persons-2023

読書会の流れ

＊ご挨拶・お願いなど／チェックイン（チャット欄に書き込み）

＊本書の概要紹介

＊その回でとりあげる章の概要紹介

＊訳者・山岡万里子によるキーワード解説

＊ハイライト箇所の輪読

＊ディスカッション（全体を４つのグループに分けてブレイクアウトROOM）

＊ディスカッションのシェアとQ&A

＊次回のご案内

◆目次：

序文――なぜ？ (ディーペンドラ) Preface: Why?
第1章　現代奴隷とは誰のことか Who are the Modern Slaves?
第2章　最も卑劣な犯罪――人身取引というビジネスモデル ジェニファー The Most Despicable Crime: Techniques of the Human-Trafficking Business Model
第3章　ネパールからカタールへ――債務奴隷 ディーペンドラ From Nepal to Qatar: Debt Bondage
第4章　心に刻まれたタトゥー――腐敗と免責 マルセーラ A Tattoo on Your Soul: Corruption and Impunity
第5章　奴隷化の心理的影響 ジェニファー The Psychological Impact of Enslavement
第6章　バル・アシュラムの子どもたち The Children of Bal Ashram
第7章　人身取引加害者の胸の内 (ジェニファー) In the Mind of a Trafficker
第8章　限られた選択肢 マルセーラ Limited Options
第9章　ビジネスが鍵（課題と解決法の両方で） ディーペンドラ Business Is Key—To the Problem and the Solution
第10章　解決法――個人から、分野を超えた世界的な関わりへ Solutions: From Individuals to Cross-Sector Engagement, Worldwide
第11章　私のヒーローたち My Heroes

第２回目　８月１日　19:30～

—

第３章　ネパールからカタールへ

第４章　心に刻まれたタトゥー

Keywords：『借金』『薬物』『脅し』

第３章　ネパールからカタールへ

ディーペンドラ・ジリ（ネパール人男性）の物語

学歴あり、教職経験、英語に堪能、５ヶ国語を操る、コンピュータ操作もできる。

ネパールの田舎からカタールの工業地帯へ送られ、２年間奴隷労働させられた。典型的な「債務奴隷」「債務労働」のケース。

脱出の経緯：アメリカ人の研究者でカタール大学客員教授　アンドリュー・ガードナーと知り合い彼の助手となる。

債務奴隷：誰かから借金をする⇒利息が常識を越えて（多くの場合理由なく）高い
返し終えるまで無給で働かなければならない

第３章　ネパールからカタールへ

―　ディーペンドラの経験

小学校教員、家庭教師、コンピュータ教室の指導員で自活

結婚後経済的な問題が浮上

子どもの誕生後、中東での仕事に応募をはじめる

事務職を見つけて応募　（広告の条件は、ビザ、航空券の支給、手数料は200ドル）

カトマンズで面接⇒合格　月1200カタール・リヤル（330ドル）、食事、住居つき

地元の代理業者に諸経費を支払いするため、高利で借金

カタールへ到着、工業地帯へ

肉体労働に従事　（２年間勤めなければ出国できない契約に署名）

「カファラ」制度　契約満了まで勤務／出国には雇用主からの許可等

１～２ヶ月後内勤へ　⇒給与なし　訴えて50リヤル

友人たちとの助け合い　給与を融通しあう

アンドリュー・ガードナー（アメリカ人研究者）と出会い、調査助手兼通訳に

⇒その報酬で経済的に少し回復

会社の運転手たちの待遇改善を試みる

第３章　ネパールからカタールへ

債務奴隷に陥る可能性

経済的な脆弱性
⇒社会とのつながりの喪失
⇒親しい人間関係、文化から離れる
⇒搾取を受けやすくなる

債務奴隷のビジネスモデル

複雑に重なり、絡み合っている
例：職業斡旋代理店、金貸し業者、
カタールの会社
契約をするたびに借金ができ、自由が狭まる

カタールの「カファラ」制度

外国人労働者は以下のような扱いを受けても法的に保護されない
例：パスポート取り上げ、食事の代わりにドッグフード、15時間以上の労働、酷い住居環境、出国許可を出さない、転職の自由なし

雇用主側の情報伝達の混乱

混乱をも自社の利益のために利用する

第３章　ネパールからカタールへ

債務労働のビジネスモデル

奴隷は奴隷保有者から借金をする
奴隷保有者がルールを決める
医者や薬を必要とすれば借金額が増える
子孫に引き継がれることも

合法でなくても奴隷制度が存在する国がある

モーリタリア
ハイチの「レスタベック」（実の親が裕福な家庭に子どもを送り込む）
中国の「労改」 強制収容所の政治犯、収容所間で囚人が売買される
北朝鮮
アメリカの刑務所の低賃金労働（時給27セント）

第４章　心に刻まれたタトゥー

—

マルセーラ・ロアイサ（コロンビア人女性）の物語

性的人身取引の債務奴隷状態

人身取引によって東京に売られる
現在はサバイバーが尊厳を取り戻し社会に再適応できるように手助けを行う

著者によればトラウマを克服したように見える数少ないサバイバー
ただし、「心に刻まれたタトゥー」があるという

第４章　心に刻まれたタトゥー

マルセーラの経験

16歳でシングルマザー　スーパーのレジ係／ダンサーの仕事で生計を立てる
21歳のとき娘が喘息発作で入院、仕事を失う
以前声をかけてきた「芸能マネージャー」という男にお金を借りる
男が仕事を見つけたからと、東京へ送られ、暴力団に売られた
500ドルの借金が50,000ドルに
路上に立って買春客をとる⇒車の中から見張られている
ナイトクラブに閉じ込められて売春させられる
従順に振る舞い、薬漬けにされることを避ける
コロンビアにいる友人を誘うよう強要　それが深いトラウマに
自分は売春婦であると自身を蔑む意識を植え付けられる
常連客の助けを得て、脱出しコロンビア大使館に駆け込む
コロンビアに帰国して警察に話すが、その証言は消えてしまった
心理的なサポートの約束もなかったことに

第４章　心に刻まれたタトゥー

日本のヤクザとコロンビアの性的人身取引業者とのコネクション

警察での証言が消えてしまった

⇒当局と人身取引業者の癒着、腐敗

反奴隷制の取り組みが地球規模の組織になっていない

⇒逮捕されるリスクが低い

対策のため費やされる予算の少なさ

⇒各国の政府予算を合計しても年間10億ドルに満たない

⇒かたや奴隷産業は1500億ドルを年間稼ぎ出している

反奴隷の取り組みが遅れ、不処罰となる理由は？

−奴隷労働を立証することの難しさ

−インターネット、SNSの拡大

−自由意志で働く人と混ざって移動させカモフラージュ

−周囲の問題への認識の欠如

−検察官の技能の欠如

−政府上層部の認識不足

第４章　心に刻まれたタトゥー

訴追されない加害者

労働搾取、強制労働を、捜査機関は関知しない
被害者は被害を名乗り出ないのは、多大なリスクを負うから
（脅し：故郷の家族を人質にとられているも同然）

一方で変化も。
アメリカ、フロリダの性的人身取引の例

証言を避ける被害者

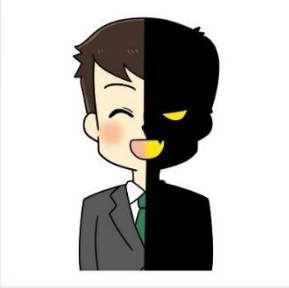
被害者を犯罪に加担させる（マルセーラの例）
心理的束縛（DVに酷似。頼れるのは人身取引業者だけ）
トラウマにより一貫性に欠ける証言
本人が「自分は被害者である」と理解しない

《解説》
なぜ抜けられないのか
～借金、薬物、脅し～

①借金（債務奴隷）

～なぜ「奴隷」状態に陥るのか、抜け出せないのか～

「借金返済」という建前(カタチ)



はじめは巧妙な勧誘　「楽にたくさん稼げるよ」

ところが、ブローカー(あっせん・送り出し機関）**からの請求**

紹介手数料　保証金　渡航費　研修費　パスポートやビザの代行手数料など

けれども「借金をしてでも働きに行きたい！」

しかも、雇い主からの請求食費　住居費　衣装代　罰金　など

＋ 脅し・暴力・労働搾取・人権侵害

結果、借金を抱えた弱い立場につけこまれる

＝見えない鎖につながれる＝人身取引・奴隷労働

中東における出稼ぎ労働者の問題

奴隷的な労働環境　長時間労働・低賃金・賃金不払い・罰金・約束と違う仕事・パスポート取上げ・パワハラ・差別・いじめ・不当解雇・劣悪な住環境・**食料/飲料水の提供拒否**

理由は、渡航前の借金(保証金・手数料・旅費etc.)

＋　**カファラ制度(身元引受人制度)**

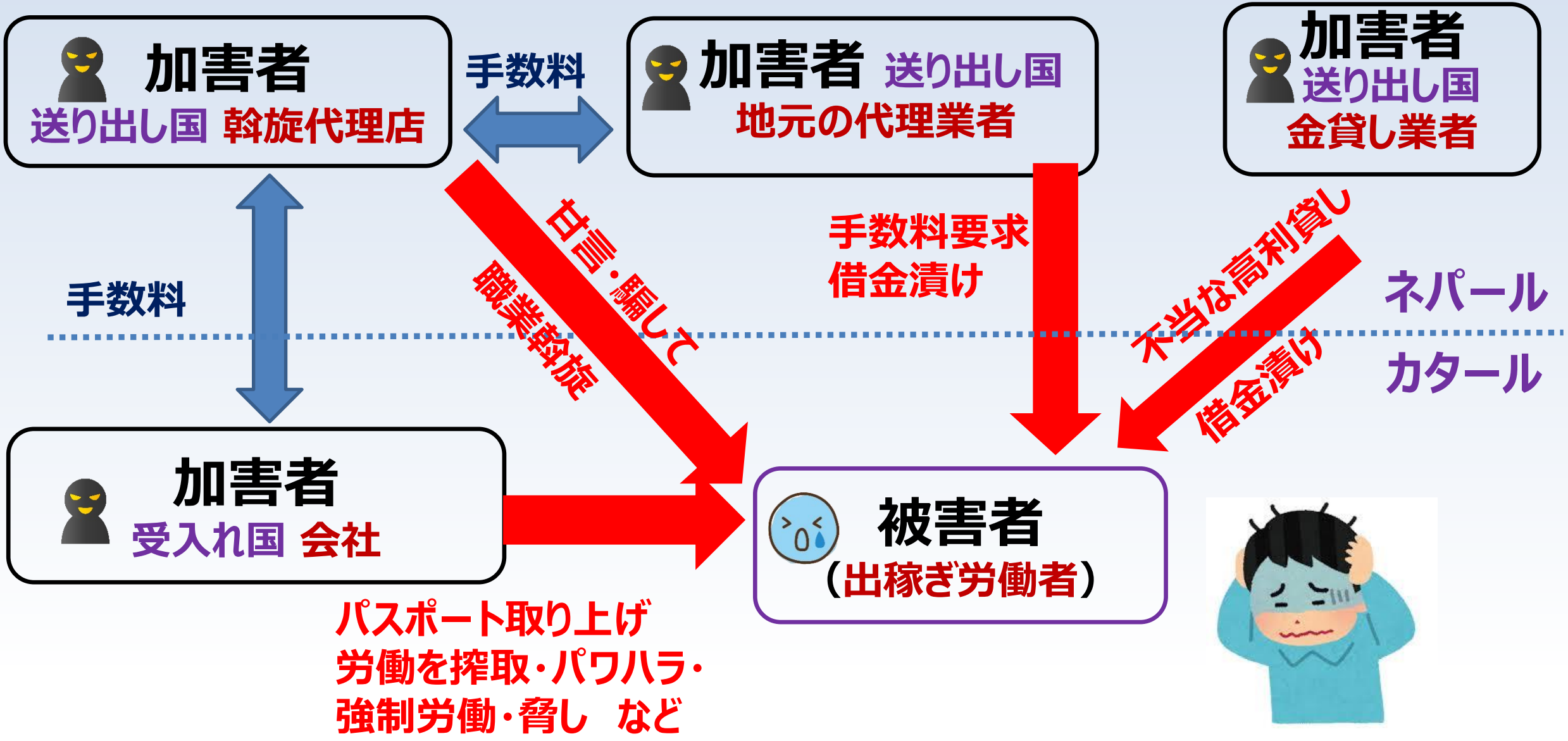
日本における外国人技能実習生の問題

奴隷的な労働環境　長時間労働・無休・低賃金・賃金不払い・罰金・不当な天引き・違約金の脅迫・約束と違う仕事・パスポート取上げ・暴力・セクハラ・パワハラ・差別・いじめ・不当解雇・外部との交流/接触禁止・携帯所持禁止・劣悪な住環境・強制帰国（の脅し）・治療拒否・労災隠し・ビザ拒否…

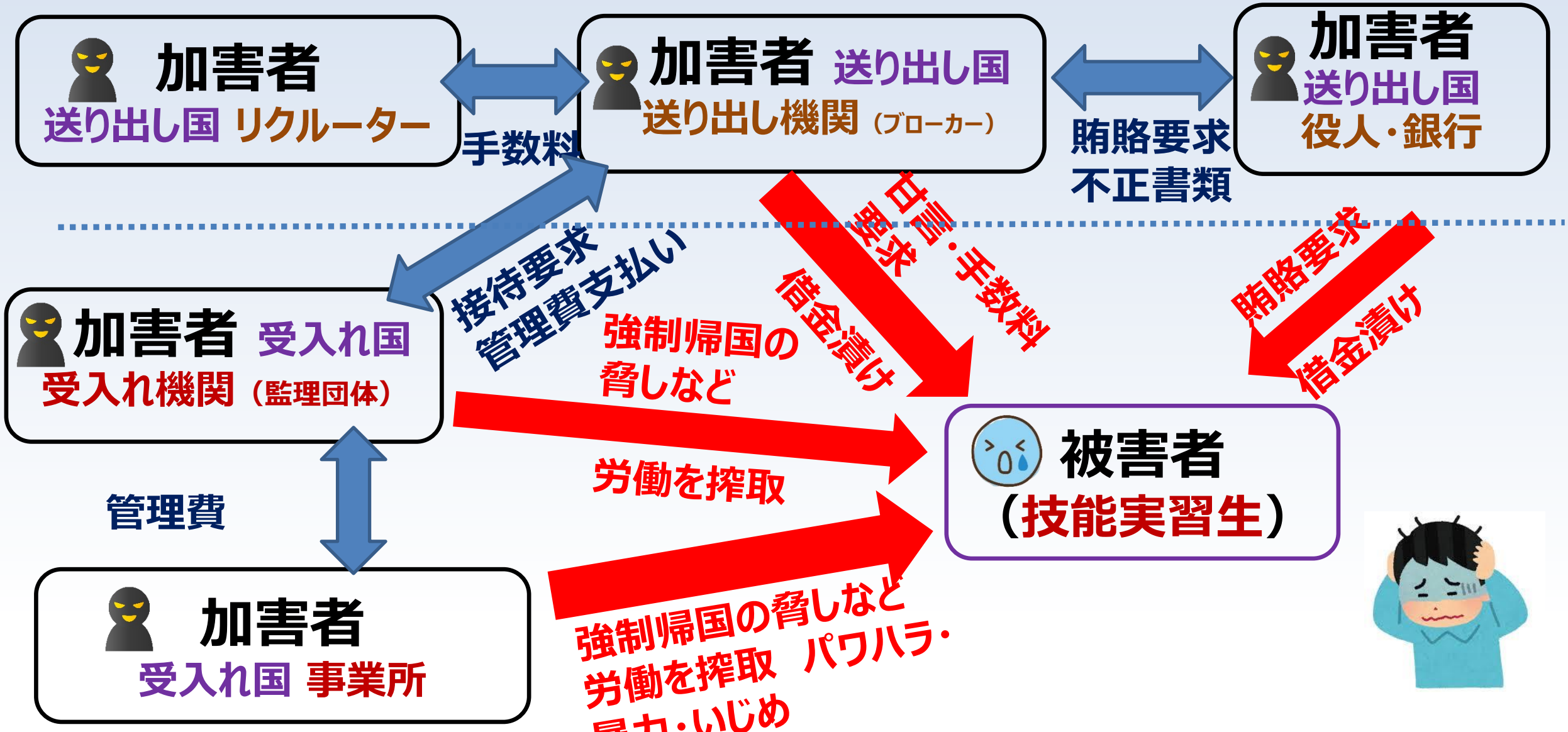
理由は、来日前の借金(保証金・手数料・旅費etc.)

＋　転職できない制度

ディーペンドラの場合


加害者
送り出し国 斡旋代理店
手数料
加害者 送り出し国
地元の代理業者
加害者
送り出し国
金貸し業者
手数料
甘言・騙して
職業斡旋
手数料要求
借金漬け
不当な高利貸し
借金漬け
ネパール
カタール
加害者
受入れ国 会社
被害者
（出稼ぎ労働者）
パスポート取り上げ
労働を搾取・パワハラ・
強制労働・脅し　など

日本の技能実習生の場合



②薬物(麻薬)による支配
～なぜ「奴隷」状態に陥るのか、抜け出せないのか～

きっかけ：好奇心・他人からの勧めの他、強制的な薬物摂取被害も。

薬物摂取＝苦しみの一時的緩和⇒**必需品となる（依存）**

薬物の入手＝高額支払いの要求⇒**借金が積みあがる**

薬物依存＝自尊心・自立心の減退⇒**加害者への依存**

薬物依存＝違法行為の自覚⇒**助けを求めることを躊躇**

薬物依存＝治療が必要だが高額で払えない⇒**放置**

薬物による健康被害⇒健康的な生活への**復帰が困難**

③脅しによる支配
～なぜ「奴隷」状態に陥るのか、抜け出せないのか～

脅しの種類　「〇〇しなければ（△△したら）、□□するぞ」

・本人または家族への暴力、殺害（売春強要の場合など）

・家族・学校への通知・世間への公表（ポルノ映像出演の場合など）

・解雇、強制帰国（強制労働の場合など）

・警察・入国管理当局への通報（違法行為をさせられている場合など）

⇓

口封じ・無抵抗にさせる・服従させる・
違法行為に加担させる

＝ますます抜け出せなくなる

声に出して、順番に読んでみましょう（輪読）

—

第３章：P64　８行目 「斡旋代理店に連絡してみると」～P66　11行目「許してくれました」

第３章：P78　９行目「ディーペンドラも語っていたように」～P80　５行目「期間が長くなるからだ」

第４章：P90　３行目「多少怖かったけれど、」～P92　９行目「差し出してしまったのです。」

第４章：P105　後ろから５行目「マネーロンダリングや」～P107後ろから７行目「でさえ、そうなのだ。」

ディスカッション15分

次に示す問いについて
どのように捉えますか？

その他、気になったフレーズ、質問や疑問なども、自由に話してみてください

１）「なぜ、抜けられないのか」

ここまで読んできてどのように理解したか

２）合法でなくても奴隷制度が存在する国がある。

日本社会の現実（技能実習生制度、外国人留学生の労働等）について、
どのように捉えたか

ご参加、ありがとうございました

ノット・フォー・セール・ジャパン
Not For Sale Japan

次回は、
８月8日（火）19:30～
５章、６章、７章を読みます